【 重要課題：インターネット等による人権侵害 】

道 徳 科 学 習 指 導 案

主題名「友達とよりよい関係を築くために」〔学指要領：B（８）友情、信頼〕

令和７年 11 月 12 日（水）第５校時　３年〇組教室

人権教育としての授業研究の視点

登場人物の気持ちや考えを想像し、意見を交換し合うことは、SNS を使う際の適切な情報発信や、他者のプライバシーを尊重する判断力を育てることに有効であったか。

Ⅰ　主題設定の理由

１　価値観

真の友情は、互いの信頼があって成り立つものである。それは相手の人間的な成長と幸せを願うことや、互いに励まし合い、高め合うことで育まれていく。しかし、時には相手のためと思って行動したことが、結果的に相手を傷つけてしまい、大切な友達関係が台無しになってしまうこともある。

情報化社会の進展で、携帯電話やスマートフォン等が中学生にも普及し、SNS を介した友達同士のトラブルも多くなっている。そこで、SNS の使い方について考えるとともに、相手の立場に立って気持ちを考え、互いに信頼したり高め合ったりできる友達関係を築くために必要なことについて考える学習を通して、自分の周りの友達との真の友情を育んでいくための判断力を育てたい。

２　生徒観　（削除）

３　教材観　教材名「合格通知」（出典：『新編　新しい道徳３』東京書籍）

舞は、受験したH高校から届いた合格通知を写真に撮り、親友である美穂へメッセージアプリで送る。美穂は自分のことのように喜び、うれしさのあまり SNS に舞の合格通知の写真を投稿してしまう。一方で、H高校が不合格だった隆は、その写真を見てさらに傷つき、舞が美穂に自慢したものと思い込んでしまう。舞は美穂が心から自分の合格を喜んでくれていたことも分かっているが、誤解とはいえ隆を傷つけてしまったことで、美穂に対する怒りの気持ちが収まらずにいるというあらすじである。

本教材は、自分の高校合格を親友にだけは知らせたいと主人公がメッセージを送ったが、親友は合格を喜び、送られてきた写真にコメントを付けて SNS に投稿してしまったことで、別の友達に誤解され、主人公が悩むという話である。このような SNS のトラブルは、中学生の間にはよくあることである。また、上記のように本学年の生徒の実態に合うものであり、彼らにとって身近な教材と言える。自分の悩みの元を作った親友やその他の友人とこれからも友情を育んでいけるのか。また、そのためにはどうすればよいのかを考えることで「真の友情」について、自己の生き方と併せて考えることができる機会にしたい。

４ 人権教育とのかかわり

教育ネット総合研究所による「2024 年度 ネット利用における実態調査」では、全国の中学生のスマートフォン所持率は 80％を超えており、特に３年生は 88.8％という高い割合である。また、全国の中学生の SNS 使用率は 90％を超えており、いつでもどこでも友達と連絡を取り合ったり、SNS を通して情報を発信したり受信したりすることができる。便利になった反面、SNS の正しい使い方を十分に理解することができず、相手を傷つけてしまう事例が本校でも見受けられる。

そのため、中学校では各教科等を通じて正しい情報モラルを身に付けていく必要がある。本校では毎年「情報モラル教室」を実施している。専門家を招き、誤った SNS の使い方により危険にさらされる事例等を生徒に提示することで、SNS を正しく使うことの重要性を繰り返し説いている。今年度は１月に予定をしており、本時の学習と系統付けて指導していきたい。

本時では、「友達の受験結果を SNS で発信してしまい、その友達や周囲にいる人を傷つけてしまう」場面を取り上げる。これについて学級で話し合うことを通して、適切な SNS の使い方と情報に関する自他の権利を尊重した責任ある行動について学ぶことができると考える。

Ⅱ　本時の学習

１　ねらい　主人公と友達がよりよい友達関係を築くためにはどうしたらよいかについて話し合うことを通して、互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築けることに気付き、心から信頼したり互いを高め合ったりできる真の友情を育むためにどのように対応するとよいかを判断できる力を育てる。

２　人権教育の視点【育てたい能力・態度】

【判断力】　インターネット等を利用する際に、情報の発信者としての責任として、個人の権利を尊重することの重要性を理解する。

３　展　開

主な学習活動　主な発問（◎中心発問　◇補助発問） 予想される生徒の意識〔Ｓ〕	○指導上の留意点
１　本時で扱う道徳的価値について、問題意識を持つ。（10 分） Ｓ：何でも話せる。一緒にいて安心する。高め合える。 Ｓ：信頼できる。困ったときに支えてくれる。 ＜めあて＞「真の友情」とはなんだろう。	○本時で扱う道徳的価値について問題意識を持つことができるように、『本当の友達』とはどのような存在かを生徒に問いかける。
２　教科書の教材文の範読を聞く。（６分） ３　教材を通して、道徳的価値についての考えを持ち、交流する。（28 分） Ｓ：信じられる。今までの友情は崩れない。 Ｓ：信じられる。自分が上げないでって言わなかった。 Ｓ：信じられない。２人だけのトークなのに。 Ｓ：信じられない。人から送られてきたものは上げない。 Ｓ：プライバシーが守られていない。 Ｓ：勝手に載せるのも限度がある。 ◎二人は親友に戻れるでしょうか？ Ｓ：戻れる。でも美穂が舞に謝る必要がある。 Ｓ：なるほど、舞は一度美穂への信用をなくしてしまったので、もう親友には戻れないかもしれないな。 Ｓ：自分だったら美穂を許せるだろうか。 Ｓ：たしかに、そもそも舞が美穂に合格通知を送れなければ良かったのかもしれない。 ◇親友とずっと仲良くいるために大切なことは何だろう。 Ｓ：相手の気持ちを想像すること。 Ｓ：思いを伝え合うこと。 Ｓ：「ありがとう」と「ごめんね」が言えること。 Ｓ：どんなに仲がよくても、相手の個人情報を許可なく SNS 等に載せないこと。 Ｓ：なるほど、隠し事をしないことも大切だな。	○生徒が道徳的価値について活発に意見交流ができるように、範読後にあらすじや登場人物の関係性を板書し、読み物の内容を確認する。 ○中心発問を通して、本時で身に付けさせたい道徳的価値に迫ることができるように、その前段階として「自分が舞だったら、これからも美穂を親友として信じられるか」問いかける。その際、インターネット等における人権侵害について生徒が考えることができるように、SNS を通して、プライバシーの侵害の恐れが生じる危険性があること、発信する情報が他に及ぼす影響や発信者の責任について触れる。 ○中心発問では、生徒がお互いの考えを可視化し、議論を活発にできるようにネームプレートを使用しながら意見交換をする。 ○自分事として捉えられるように、想起しやすい日常生活や学校生活の場面を例示する。 ○全ての生徒が考えをもつことができるように、どのようにすれば親友としての関係性が成り立つかを尋ねたり、必要に応じて日頃の友達との関わり方について想起できるような問いかけをしたりする。 ○自分事として捉えられるように、自分が答えたことを日常生活で実践できているかについて問いかける。 ○表面的な答えで終わらないように、具体的な場面も想像するよう声がけをする。 ○他者の考えを参考にしながら、自分の考えをより確かなものにできるように、道徳的価値に迫る生徒の考えを意図的に指名して紹介する。

４　道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。（５分） Ｓ：何でも話せる。高め合える。信頼できる。	○中心発問での考えに変容がある生徒がいる場合は、ネームプレートを動かすよう声がけをする。
５　本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。（10 分）	○生徒が今までの自分の言動を振り返ったり、これからの生活について考えたりできるように、本時で交流した内容等を確認する。

＜振り返り＞
Ｓ：本当の友達とは、自分の意見を伝え合ったり、互いを高め合ったり（信用したり）することができる存在ということがわかった。自分もそのような親友をつくっていきたい。
Ｓ：真の友達を築くためには、相手の気持ちを考え、SNS を使うときは先のことを想像してから使うことが大切だと思った。

◆評価の視点

・話合い活動の様子から、「真の友情を築くために必要なことについて、多面的・多角的に考えているか」を評価する。
・振り返りの記述から、「道徳的価値について理解し、真の友情とは何かについて自分自身との関わりの中で考えているか」を評価する。